

令和5年度 第13回「出城地区 白山市ミライ会議」概要

日 時：令和5年8月31日（木） 19：30～20：30

場 所：出城公民館

参加団体等：町内会長会、壮年会、交通安全協会、出城子ども夢未来でじむクラブ、出城公民館運営審議会、ゆ〜城倶楽部、出城社会福祉協議会、食生活改善推進協議会、蕪城小学校PTA、北星中PTA、蕪城校下子ども会、蕪城っ子見守り隊、出城地区自主防災委員会、出城女性消防隊、蕪城地区民生委員児童委員協議会、出城福社会ぶじょうこども園理事長、出城親和会、出城ボランティアグループ、公民館運営審議会委員、公民館長、町会連合会理事ほか

発言【1】

IR いしかわ線の駅が白山市では5つ、北陸鉄道石川線の駅と合わせて15の駅ができる。IR いしかわ線も、北陸鉄道石川線と同様に、多くの方に利用してもらうように集客の仕掛けが重要になる。白山市には、IR いしかわ線の活性化のビジョンがあるか。

【市】

IR いしかわ線の利活用促進策については、令和4年11月に石川県及び県内全市町、経済団体、交通事業者等で組織する「いしかわ並行在来線金沢以西延伸対策検討会」において「石川県並行在来線経営計画（金沢以西延伸）」を決定し、それに基づき令和5年2月にIR いしかわ鉄道㈱及び石川県並びに沿線市町（金沢市、小松市、加賀市、白山市、能美市、野々市市、津幡町）共同で「鉄道事業再構築実施計画」に係る国土交通大臣の認定を受けたところです。

また、5月には石川県、沿線市町、交通事業者、利用者代表等で組織する「IR いしかわ鉄道利用促進協議会」を設置し、IR いしかわ鉄道線の経営安定化及び利用促進策等について検討・協議した上で、各々協力しながら各種施策を実施していくこととしています。

白山市としては、高速鉄道ビジターセンター（白山トレインパーク）を大きな目玉とし、最寄り駅である加賀笠間駅に自由通路を作るなどし、IR いしかわ鉄道の駅の乗客数を増やしていきたいと考えています。例えば松任駅は文化施設が集結している地域であり、加賀笠間駅はあさがおスタジアム（市立野球場）金城大学が近くにあります。美川駅や新設の西松任駅は周辺に居住地が多く、駐車場も多いのでパークアンドライドとしての利用。小舞子駅は近くに小舞子

海岸や石川県水産総合センターがあり、11月頃には手取川で鮭の遡上を見ることが出来ます。このように各駅ごとの目的地を明確にし、利用者数を増やしていきたいと考えております。

発言【2】

蕪城体育館が古く、2年前に建て替えの地区要望を出した。出城地区は人口が増えているが、人口の割にスポーツができる場所が少ない。蕪城体育館を新しく建て替えて欲しい。

【市】

以前に提案いただいたように、1階を防災備蓄倉庫、2階を出城体育館にするといった避難所という形で考えた方が良いと思います。老朽化している市内各地区の軽体育館とのバランスも考慮し、防災備蓄倉庫の整備等も勘案しながら、慎重に検討してまいります。

発言【3】

少子高齢化が進む中で、各地区に空き家が点在している状況が目に見て分かる。白山市で考えている取り組みなどがあれば教えてほしい。

【市】

空き家等を放置した結果、建物が倒壊したり、物が落下して近隣の建物や行人に被害を与えた場合、その所有者等は損害賠償等の管理責任を問われることがあります。そのため、毎年、町内会長に協力していただき空き家調査を実施し、管理が不十分な物件については、市から通知や電話で、改善を促すなどの対策を取っております。倒壊の恐れがある物件等については、調査のうえ特定空き家に認定し、代執行を行う場合もあります。その際の費用については、所有者等に請求することになります。所有者が解体した際には補助制度（解体費の1/2上限50万円）もあります。

活用策としては、空き家バンク制度を利用していただき、売却や賃貸に繋がっています。そのほか、鶴来地区では商工会が空き家を紹介し、空き家をリフォームした、スイーツ店などが増えています。また、美川地区では小学生が総合的な学習の時間に、自分たちが住む町の空き家について議論し、色々な案を出しており、行政以外の場でも色々な取り組みがなされています。

発言【4】

- (1) 令和6年度に公民館がコミュニティセンターになるにあたって、条例の進捗状況などはいかがなものか。
- (2) ある自治体では、指定管理者制度を使い全面的に民間企業にコミュニティセンターの管理運営を委託するという方法をとっている。白山市にもそのような方向性があるのか。

【市】

- (1) 「(仮称)白山市地域コミュニティに関する条例」は、地域コミュニティ組織及びコミュニティセンターに関する事項を規定することとしており、市議会9月会議において概要説明を行い、10月にパブリックコメントを実施しました。寄せられたご意見を考慮して条例案を作成し、市議会12月会議に議案を上程し、令和6年4月の施行に向けて準備を進めております。
- (2) 令和6年度からのコミュニティセンターの管理については、公民館からの円滑な移行に向けて、従来どおり市が直轄で管理する予定です。現在のところ指定管理者制度の導入に関する協議は行っておりません。

発言【5】

例えばベンチャーや副業から事業を始めようとしている人もいる。そのような人達のチャレンジを後押しするような施策は考えているのか。

【市】

市では、白山市起業家支援補助金交付制度を創設しており、市内で新たに起業して1年未満の会社や個人の方に、事務所や店舗等の開業に必要な費用の一部を補助しております。チャレンジをするということは大事だと思っています。若者も自分で起業し、頑張れるような白山市にしたいと思います。

発言【6】

出城公民館では毎年防災訓練等を開催している。我々住民は災害に対する備えを100パーセントではないがしっかりとしているつもりである。市は災害が起きた場合、財政面も含めてどの様な備えをしているのか、聞かせてほしい。

【市】

大規模な災害時には、国、県、消防本部、气象台等関係機関と連携を取り合い、気象状況の動向を注視しながら、できるだけ早い段階で避難所を開設するとともに、防災行政無線、ホームページ、メール、ライン等で避難指示等の情

報発信を行い、避難を呼びかけることとしています。

本市は市域が広く、それぞれの地域において自然環境などの諸条件に違いがみられることから、想定される災害の種別も地域によって異なります。また、市内で災害が発生した場合、その災害種別や被害規模に応じ、それぞれの地域において、異なる対応が求められることも予想されます。

今後は市庁舎に隣接して防災センターを建築し、常に国とのホットラインを結べる状態にし、災害が発生した際はすぐに職員を招集し、そこで災害の対策本部がつかれるようになります。

また、災害に備え、市では食料、保存水などを含む備蓄品の供給、確保に努めていますが、その他、関係業者と災害時応援協定の締結や災害時協力事業所の登録などにも積極的に取り組んでおり、有事の際には支援物資、給水車の応援、堆積する土砂の撤去やボランティアの要請などを行っていくこととしております。

発言【7】

今年、白山手取川ユネスコ世界ジオパーク認定を受け、4年後にも審査があると聞いている。世界ジオパークは山ろくの方はジオのポイントがあるが、平野の方ではポイントが少ない。またジオパークに関する意識が少ないということを知っている。その中で、子供たちの教育などジオパークをどのように広めていくのか。

【市】

SDGs 白山手取川ジオパーク推進事業にて、各校の実態や地域特性に応じた学習を進めたり、白山市内のジオサイトの見学を含む「ジオパーク学習モデルコース」から選択しジオパーク学習支援員から直接学んだり、各種事業を学校の教育活動に生かすよう指導助言しており、白山市内の全ての学校において、総合的な学習でジオパークに関する学習を必ず入れるという取り組みをしています。その学習をしながらジオ遠足として、または白山ろく少年自然の家に宿泊をして、色々体験をしてもらっています。

現在、市内各校で共通して取り組むべきジオパークに関連した教科・単元を洗い出し、教育課程に位置付けてもらう予定となっています。そうすることで、どの地域の学校でも格差なく、普段の教科学習を通して、ジオパークに関連した学習を進めることができると考えています。

ジオパークというと山ろくや海岸地域と思われがちですが、ジオパークの考

え方ではそこにある自然だけでなく、自然の中での人の営み歴史、文化などを含んでいます。松任地区には、手取川七ヶ用水があり、その用水を学ぶことは、加賀平野で育っている子ども達にとって、とても重要なジオパークの学習であると思っています。

また、最近は公民館でもジオパークに関連した学習会を沢山行っています。観光振興も大切ですが、子どもだけでなく大人にもジオパークを知ってもらうような取り組みをしていきたいと思います。